柔道整復スポーツ学科　（昼間部３年制）

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思想の基礎・人間と生活	情報科学Ⅰ Information ScienceⅠ	必修	講義	2	30	30						Windows操作とタイピングの基礎を修得し、Word、Excelの基本を学ぶ。また、PowerPointを使用し発表用スライドの作成方法を修得する。
		情報科学Ⅱ Information ScienceⅡ	必修	講義	2	30			30				Excelソフトを使用し（COUNTIF関数、ピボットテーブル、グラフ作成）実務資料をデザインできるように学ぶ。また、データの特徴を数値化して理解し、統計学的処理方法を修得する。
		外国語 Foreign language	必修	講義	2	30			30				多職種連携で必要になる人体の各部名称の医療英語の知識を習得し、診療記録記載形式を学ぶ。また、学術用語の発音上の注意事項や臨床に用いられる主な略語を修得する。
		栄養学 Nutrition	必修	講義	2	30		30					栄養の概念を学び、栄養素の構造と機能を理解する。また、各種栄養素代謝の概要、過剰摂取や欠乏症など栄養に関する諸問題を学び、栄養指導の応用方法を修得する。
		健康管理学Ⅰ Health managementⅠ	必修	講義	2	30	30						健康の捉え方を予防医学・公衆衛生の観点を学び健康の指標と現状について学ぶ。また、生活習慣と健康についての知識を習得する。
		健康管理学Ⅱ Health managementⅡ	必修	講義	2	30		30					疾病の概要を学びその予防法を学び、さらには健康管理の進め方を修得する。また、健康管理の実際、健康情報についての知識を修得する。
		生物学・生化学 Biology ・ Biochemistry	必修	講義	2	30	30						細胞の成り立ちや細胞分裂の様式、遺伝の法則など生物学の基礎的な知識を学ぶ。また、生物を構成する物質の基本的性質の知識を修得する。
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ AnatomyⅠ	必修	講義	4	60	60						解剖学の意義と分類を理解し、ヒトの細胞の形と組織の種類・発生過程・内臓系・循環器系・消化器系・内分泌系の知識を修得する。
		解剖学Ⅱ AnatomyⅡ	必修	講義	2	30	30						人体の骨の役割、骨の形状分類、骨の構造、骨の発生と成長を理解し、上肢・下肢骨の構造と機能の知識を修得する。
		解剖学Ⅲ AnatomyⅢ	必修	講義	4	60		60					人体の呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・神経系・感覚器・体表解剖を学び人体の構造と機能の知識を修得する。
		解剖学Ⅳ AnatomyⅣ	必修	講義	2	30		30					人体の筋の役割、筋の形状分類、筋の構造、筋の走行や神経を学び、上肢・下肢・体幹筋の構造と機能の知識を修得する。
		生理学Ⅰ PhysiologyⅠ	必修	講義	4	60	60						生理学基礎（細胞生理学など）、植物性生理学（血液、骨、循環、呼吸、消化吸収、排泄、内分泌など）の知識を修得する。
		生理学Ⅱ PhysiologyⅡ	必修	講義	4	60		60					動物性生理学（筋肉、神経、感覚、高次神経活動など）を学び、ヒトの正常な生理機能、人体の生命維持に関する知識を修得する。
		生理学Ⅲ PhysiologyⅢ	必修	講義	2	30					30		加齢・老化に伴う生理学的な心身の変化や身体的特徴、好発する内科的疾患についての知識を修得する。また、競技と競技特性を理解し、種目別の外傷予防と好発する疾病および外傷の特徴を修得する。
		運動学Ⅰ KinesiologyⅠ	必修	講義	2	30			30				運動器を中心とした解剖学や生理学等の知識に基づき、生体力学や運動器と神経系の構造と機能、反射と随意運動についての知識を修得する。
		運動学Ⅱ KinesiologyⅡ	必修	講義	2	30				30			関節運動などの身体運動を可能にしているメカニズムについての知識を学び、また、ヒトの歩行運動や姿勢に関する知識を修得する。
	疾病と障害	病理学 Pathology	必修	講義	2	30			30				基礎医学における病理学の位置づけを理解し、病理組織の観察方法を学ぶ。また、疾病の形態、疾病鑑別の基本原理、免疫の仕組みを理解し、腫瘍、奇形などの病的変化を理解し、正常組織との違いを修得する。
		一般臨床医学 General Clinical Medicine	必修	講義	2	30			30				臨床医学・診断学の概要を理解し、診察各論について学び、主要な疾患の診断方法を修得する。また、臨床医学で遭遇する主要な疾患の機序、特徴、検査法について修得する。
		衛生学･公衆衛生学 Public Health	必修	講義	2	30			30				健康と社会・環境に関する基本的知識を修得するとともに、健康の維持と増進、疾病の予防、健康管理、環境保健、健康教育、衛生行政、医療制度などの公衆衛生に関する知識を修得する。

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎分野	疾病と障害	整形外科学 Orthopedic Surgery	必修	講義	2	30					30		整形外科の概説を理解し、整形外科的診察法（X-P・CT・MRI・造影・PET・骨密度測定・超音波検査）を学ぶ。また、整形外科領域で遭遇する主要な疾患の概要、観血療法、術後リハビリテーションを修得する。
		外科学 Surgery	必修	講義	2	30					30		手術的治療法を主要な手段とする治療医学ないし応用医学である外科学の概要を理解し、その対象となる悪性新生物を中心に学ぶ。また、手術療法に関連のある麻酔や止血、ショック、移植の知識を修得する。
		リハビリテーション医学 Rehabilitation	必修	講義	2	30					30		基本的なリハビリテーション医学・医療について学び、機能評価、治療手法、アウトカム測定・評価の原理を理解する。また、主要な対象疾患、障害についてのリハビリテーションアプローチについて修得する。
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応 Adaptation of Judo therapy	必修	講義	2	30						30	柔道整復術の業務範囲を理解し、適応疾患の症状鑑別、軟部組織損傷を伴う外傷の判別、意識障害・脊損のある外傷の判別、呼吸運動障害を伴う損傷の判別、内臓損傷の合併損傷の判別を修得する。
	保健医療福祉と柔道整復の理念	関係法規 Related Laws and Regulations	必修	講義	2	30					30		法の意義、法の体系、柔道整復師および柔道整復に関する法の意義、目的、定義を学ぶ。また、指定登録機関及び指定試験機関、医療従事者の身分関係法、医療法を修得する。
		柔　道　Ⅰ Judo Ⅰ	必修	実習	1	30		30					柔道の歴史、ルールについて理解し、礼法、受け身の基礎（後受身・横受身・前受身・前回受身）を学び、受身応用、様々な受身を習得する。
		柔　道　Ⅱ Judo　Ⅱ	必修	実習	1	30			30				講道館柔道の投技である、手技（浮落・背負投・肩車）、腰技（浮腰・払腰・釣込腰）、足技（送足払・支釣込足・内股）を修得する。
		柔　道　Ⅲ Judo　Ⅲ	必修	実習	1	30				30			投技の形である、手技（浮落・背負投・肩車）、腰技（浮腰・払腰・釣込腰）、足技（送足払・支釣込足・内股）の習熟度を上げる。
		柔　道　Ⅳ Judo　Ⅳ	必修	実習	1	30					30		乱取の種類を理解し、乱取を通じて、タイミングよく技を掛けたり、技を組み合わせての投げ方を学び、技の防ぎ方、返し技なの技術を習得する。
		医療倫理 Medical ethics	必修	講義	2	30	30						医学史を基に柔道整復術および柔道整復師の沿革や業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領を学ぶ。また、医療従事者の職業倫理と柔道整復師の社会的責任と対応について修得する。
	社会保障制度	社会保障制度 Social security system	必修	講義	2	30				30			現代社会における社会保障制度、医療保険制度の概要を学び、柔道整復師における療養費の仕組みや、介護保険制度の概要と柔道整復師の関係、介護過程の知識を修得する。
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学･総論Ⅰ Basic Judo therapy General topicⅠ	必修	講義	2	30	30						骨の形態と機能、骨損傷、骨折の分類、骨折の症状、骨折の合併症、小児骨折と高齢者骨折の特徴、骨折の治癒過程等骨折についての知識を修得する。
		基礎柔道整復学･総論Ⅱ Basic Judo therapy General topicⅡ	必修	講義	2	30	30						人体と損傷時に加わる力、痛みの基礎、関節損傷について学び、脱臼の整復について理解する。また、筋損傷、腱損傷、末梢神経損傷の知識を修得する。
		基礎柔道整復学･各論Ⅰ Basic Judo therapy Each argumentⅠ	必修	講義	2	30		30					上肢骨折（鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨近位端骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨遠位端部骨折、前腕近位部骨折）についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。
		基礎柔道整復学･各論Ⅱ Basic Judo therapy Each argumentⅡ	必修	講義	2	30		30					下肢骨折（骨盤骨骨折、大腿骨骨折、膝蓋骨骨折、下腿骨骨折、足根骨骨折）についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。
		基礎柔道整復学･各論Ⅲ Basic Judo therapy Each argumentⅢ	必修	講義	2	30		30					頭部、顔面骨骨折、頸椎骨折、胸椎骨折、胸部骨折、顎関節脱臼、頸椎脱臼、胸腰椎脱臼、鎖骨脱臼、肩関節脱臼についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。
		基礎柔道整復学･各論Ⅳ Basic Judo therapy Each argumentⅣ	必修	講義	2	30					30		運動器系の疼痛を訴える患者の施術、肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方について理解し、外傷保存療法の経過および治癒の判定方法を学ぶ。
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学・各論Ⅰ Clinical Judo therapy　Each argumentⅠ	必修	講義	2	30			30				上肢骨折（前腕骨骨幹部骨折、前腕骨遠位端部骨折、手根骨部、中手骨骨折、指骨骨折）頭部・体幹の軟部組織損傷についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。
		臨床柔道整復学・各論Ⅱ Clinical Judo therapy　Each argumentⅡ	必修	講義	2	30			30				中足骨・趾骨骨折、下肢脱臼、下肢軟部組織損傷（股関節、大腿部、膝関節部、下腿部、足関節部、足・趾部）についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学・各論Ⅲ Clinical Judo therapy Each argumentⅢ	必修	講義	2	30			30				上肢脱臼（肘関節、手関節、手根中手関節、手指関節）上肢軟部組織損傷（肩関節、上腕部、肘部、前腕部、手関節、手指部）についての合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法の知識を修得する。
		臨床柔道整復学・総合演習Ⅰ Clinical Judo therapy ExerciseⅠ	必修	演習	4	60					60		卒業模擬試験を通じて、三年間で学んだ総合的な知識、柔道整復師として必要となる応用的知識の習熟度を高める。
		臨床柔道整復学・総合演習Ⅱ Clinical Judo therapy ExerciseⅡ	必修	演習	4	60						60	卒業模擬試験を通じて、三年間で学んだ総合的な知識、柔道整復師として必要となる知識の習熟度を高め、さらに臨床現場で必要な知識の習熟度を高める。
		臨床柔道整復学・物理療法 Clinical Judo therapy・Physical therapy	必修	講義	2	30						30	柔道整復師が一般的に使用する各種物理療法の原理、方法、適応、禁忌、指導管理、臨床現場の実際を学ぶ。また、最新の物療機器の理解を深める。
		臨床柔道整復学・臨床的判定 Clinical judgment of Judo therapy adaptation	必修	講義	2	30						30	柔道整復術の臨床的に遭遇する主要な疾患の理解を深め、適応疾患に対しての臨床的な判定を学ぶ。また、医用画像の読影方法を修得する。
	柔道整復実技（臨床実習を含む）	固定法Ⅰ Fixed methodⅠ	必修	実習	1	30	30						包帯の定義、目的､種類を理解し、基礎的な包帯法（環行帯、螺旋帯、折転帯、離開・集合亀甲帯）を習得する。また、基礎包帯技術を使用し、各部（指部、前腕、手部、足部）の被覆包帯法を学ぶ。
		固定法Ⅱ Fixed methodⅡ	必修	実習	1	30		30					習得した基礎包帯法から応用的な包帯法を学び、各部（肩関節、足関節、下腿部、膝関節部、）の被覆包帯法を習得する。
		固定法Ⅲ Fixed methodⅢ	必修	実習	1	30			30				テーピングの基礎（目的、分類、種類、禁忌、注意事項、貼付方法、切り方）を理解し、各種テーピングを使用しての臨床上遭遇しやすい外傷のテーピング方法を習得する。
		固定法Ⅳ Fixed methodⅣ	必修	実習	1	30				30			臨床的な包帯法を理解し、臨床上遭遇しやすい疾患（鎖骨骨折、肩関節脱臼、肘関節脱臼、膝蓋骨脱臼）に対しての臨床的包帯法を習得する。
		柔道整復実践実技Ⅰ Judo therapy Practical skill Ⅰ	必修	実習	1	30		30					骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する各種整復法（鎖骨骨折、顎関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障等）を学び、それに伴う固定法も同時に習得する。
		柔道整復実践実技Ⅱ Judo therapy Practical skill Ⅱ	必修	実習	1	30			30				軟部組織損傷に対する各種検査法（腱板損傷、上腕二頭筋損傷、大腿四頭筋損傷、膝靭帯損傷、半月板損傷、下腿三頭筋損傷、アキレス腱断裂、足靭帯損傷）を学び、それに伴う固定法も同時に習得する。
		柔道整復実践実技Ⅲ Judo therapy Practical skill Ⅲ	必修	実習	1	30				30			柔道整復実践実技Ⅰ・Ⅱで習得した骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する各種整復法および検査法の成熟度を向上させ、認定実技審査合格の水準に達する。
		柔道整復実践実技Ⅳ Judo therapy Practical skill Ⅳ	必修	実習	1	30					30		柔道整復実践実技Ⅰ・Ⅱで習得した骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する各種固定法法の成熟度を向上させ、認定実技審査合格の水準に達する。
		柔道整復実践実技Ⅴ Judo therapy Practical skill Ⅴ	必修	実習	1	30						30	三年間の柔道整復実技の集大成として今まで習得した技術を臨床現場においても実用可能な水準に達する応用知識及び応用技術を習得する。
		柔道整復実技Ⅰ Judo therapy practicalⅠ	必修	実習	1	30				30			鎖骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折についての理解を深め（病態、整復法、合併症、固定法、後療法）、国家試験合格基準水準に達する。
		柔道整復実技Ⅱ Judo therapy practicalⅡ	必修	実習	1	30				30			手根骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折、上肢脱臼（肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、胸鎖関節脱臼）上肢軟部組織損傷（腱板損傷、上腕二頭筋損傷）の理解を深め、国家試験合格水準に達する。
		柔道整復実技Ⅲ Judo therapy practicalⅢ	必修	実習	1	30				30			下肢骨折（骨盤骨骨折、大腿骨骨折、膝蓋骨骨折、下腿骨折、足部骨折）、下肢軟部組織損傷（大腿部、下腿部、足部）の理解を深め、国家試験合格水準に達する。
		柔道整復応用実技Ⅰ Judo therapy applied practical skillⅠ	必修	実習	1	30				30			上肢骨折、上肢脱臼、上肢軟部組織損傷、頭部・体幹骨折および軟部組織損傷における診察から施術までの技能、診察力の統合的な知識・技術を習得する。
		柔道整復応用実技Ⅱ Judo therapy applied practical skillⅡ	必修	実習	1	30				30			下肢骨折、上肢脱臼、下肢軟部組織損傷、頭部・体幹脱臼および軟部組織損傷における診察から施術までの技能、診察力の統合的な知識・技術を習得する。

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	柔道整復実技（臨床実習を含む）	柔道整復応用実技Ⅲ Judo therapy applied practical skillⅢ	必修	実習	1	30					30		機能訓練指導員として必要な知識を学び、（認知症、高齢者介護、ICF、介護予防、日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドローム、高齢者の自立支援）また、機能訓練の実際を習得する。
		柔道整復応用実技Ⅳ Judo therapy applied practical skillⅣ	必修	実習	1	30						30	柔道整復師、医療人として必要な礼法を身につけ、さらに施術補助する助手としての手持ち、足持ちを習得し、また、柔道整復師としての臨床現場で必要な技術を習得する。
		外傷予防 Trauma prevention technology	必修	実習	1	30					30		競技者の外傷予防のための実技を理解し、メディカルチェック方法、外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際、外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際の技術を習得する。
		臨床実習Ⅰ Clinical trainingⅠ	必修	実習	1	45		45					臨床実習の目的・目標の概説説明　身だしなみについて理解し、柔道整復師としての倫理、接遇、施術録作成方法、患者の状況の的確な把握・鑑別、患者の誘導を習得する。
		臨床実習Ⅱ Clinical trainingⅡ	必修	実習	1	45			45				医療面接の意義を理解し、上肢の評価方法を習得する（ランドマーク、触診技術、関節可動域測定、MMT、徒手検査法、反射検査）。
		臨床実習Ⅲ Clinical trainingⅢ	必修	実習	1	45				45			身体評価の意義を理解し、表在感覚検査、深部感覚検査を学び、下肢の評価方法を習得する（ランドマーク、触診技術、関節可動域測定、MMT、徒手検査法、反射検査）。
		臨床実習Ⅳ Clinical trainingⅣ	必修	実習	1	45					45		上肢、下肢、体幹の身体評価から損傷部位を想定し、EBM（科学的根拠に基づく治療）に基づく施術方針を自身で決定し、施術に至るまでを習得する。
その他のスポーツ分野	スポーツ系医療分野	救急処置法Ⅰ First Aid and Emergency Care By JRCS Ⅰ	必修	演習	2	30	30						応急処置法の基本技術である三角巾を用いての包帯法、検脈、止血、救急固定、救急搬送、救急蘇生を学び、基本的必要な救急処置の知識と技術を習得する。
		救急処置法Ⅱ First Aid and Emergency Care By JRCS Ⅱ	必修	演習	2	30		30					救急処置の重要性や基本事項を理解し、事故発生時の一連の手順(観察、評価、判断、処置、救急処置、固定法、搬送法)を習得する。また、救急で遭遇しやすい疾患の知識を修得する。
		スポーツ医学概論Ⅰ Sports Medicine Ⅰ	必修	講義	2	30		30					各種スポーツ競技においてのルール、フィールド、環境設備等を学び、各種競技において発生しやすい傷害を理解する。また、傷害の発生についてのバイオメカニクス的考察を深める。
		スポーツ医学概論Ⅱ Sports Medicine Ⅱ	必修	講義	2	30			30				スポーツ現場に多い傷害(突然死、熱中症、スポーツ貧血、オーバーユース症候群等)についての理解を深める。また、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、アンチドーピングの知識を修得する。
		スポーツ外傷論Ⅰ Theory of Sports Wound Ⅰ	必修	講義	2	30				30			スポーツ傷害の定義、外傷の原因となるストレス、組織の修復過程などを理解する。また、頭部、顔面、体幹、上肢のスポーツ外傷・傷害についての知識を修得する。
		スポーツ外傷論Ⅱ Theory of Sports Wound Ⅱ	必修	講義	2	30					30		スポーツ現場で発生しやすい、下肢のスポーツ外傷・障害についての理解を深めるために、下肢の構造と機能を学び、下肢外傷の各論的知識、処置の知識を修得する。
		スポーツ内科学 Sports Internal Medicine	必修	講義	2	30					30		スポーツ選手に多く発症しやすい内科的疾患(呼吸器疾患、血液感染症、皮膚疾患、眼疾患、循環器疾患、代謝性疾患、腎泌尿器疾患)についての知識を学び、またその対処方法を修得する。
		トレーナー概論 Principles of Training	必修	講義	2	30	30						アスレティックトレーナーとしての基礎知識を歴史、業務内容、組織運営(コーチ、医科学スタッフとの連携、協力)など多様な角度から学び、倫理感や役割についての理解を深める。
		予防とコンディショニングⅠ Conditioning Ⅰ	必修	演習	4	60			60				テーピングの基本理論、原理、原則を学び、各部位別（足関節、膝関節、肩関節）テーピング方法を習得する。また、コンディショニング理論を学びマッサージの手法を習得する。
		予防とコンディショニングⅡ Conditioning Ⅱ	必修	演習	2	30				30			コンディショニングの目的を意識した各種競技特性に応じたトレーニング計画、プログラム（陸上競技、コンタクトスポーツ、球技、パワースポーツ）の立案を習得する。
		リコンディショニングⅠ Reconditioning Ⅰ	必修	演習	2	30				30			SOPA形式（問題志向型システム）の作成方法を学び、代表的な各疾患（足関節・下腿・膝関節疾患）に対してのゴール設定に合わせた適切なコンディショニング処置を習得する。
		リコンディショニングⅡ Reconditioning Ⅱ	必修	演習	4	60					60		競技種目特性を学び、リコンディショニングⅠで修得した知識を活かし、各疾患別のアスレティックリハビリテーションを立案できる知識・技術を習得する。

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
その他のスポーツ分野	スポーツ系トレーナー分野	トレーニング理論・実習 Strength Training and Reconditioning	必修	実習	1	30	30						筋力トレーニングの基礎知識を理解し、筋力トレーニングに関わる機能解剖学（筋・骨格系）と運動生理学（呼吸器系・内分泌系・エネルギー代謝）の知識を習得する。
		トレーニング総合実習 Exercise Practicum	必修	実習	1	30		30					トレーニング指導者に必要な指導者論、トレーニング計画・プログラムの立案を作成方法を修得する。また、作成した計画を個々のクライアントに合わせたプログラムの調整を修得する。
		トレーニング科学Ⅰ Training Science Ⅰ	必修	講義	2	30			30				トレーニング指導者の役割と現状について学び、トレーニング計画を作成し指導方法（ベーシックレジスタンス、ウエイトプログラム、パワー向上）に合わせたメニュー作成方法を修得する。
		トレーニング科学Ⅱ Training Science Ⅱ	必修	講義	2	30				30			トレーニング計画を作成し指導方法（スピードトレーニング、ウエイトトレーニング、ファンクショナルトレーニング、フリーウエイトトレーニング）を修得する。
		スポーツ栄養学 Sports Nutrition	必修	講義	2	30	30						身体組成と体脂肪・除脂肪体重について学び、アスリートの体づくりに必要な知識（ウエイトコントロール、栄養ケアマネジメント、エネルギー消費量、ビタミン摂取等）を修得する。
		検査・測定と評価 Evaluation	必修	実習	1	30			30				評価についての意義、目的を学び、各関節（肩関節、肘関節、股関節、足関節、体幹）における整形外科的検査、徒手筋力検査、関節可動域測定を習得する。
		トレーナー実習Ⅰ Internship Program for Athletic Trainer Ⅰ	必修	実習	1	30	30						スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーとしての役割を理解し、コンディショニングに必要な各部位（膝関節・下半身・体幹部・肩関節）のストレッチの知識を修得する。
		トレーナー実習Ⅱ Internship Program for Athletic Trainer Ⅱ	必修	実習	1	30	30						スポーツ現場でアスレティックトレーナーに必要なストレッチの技法（スタティック・バリスティックストレッチ）を学び、クラスメイトに向けてのダウンメニュー作成を習得する。
		トレーナー実習Ⅲ Internship Program for Athletic Trainer Ⅲ	必修	実習	1	30	30						スポーツ現場でアスレティックトレーナーに必要な下肢の触診技術（骨盤周囲、大腿骨周囲、脛骨、腓骨、足関節周囲）を習得する。
		トレーナー実習Ⅳ Internship Program for Athletic Trainer Ⅳ	必修	実習	1	30		30					スポーツ現場でアスレティックトレーナーに必要な体幹、上肢の触診技術（鎖骨、胸骨、上腕骨、橈骨、尺骨）を習得する。
		トレーナー実習Ⅴ Internship Program for Athletic Trainer Ⅴ	必修	実習	1	30		30					障害予防を意識したトレーニング指導を学び、競技復帰のためのトレーニングメニューを指導できるように修得する。また、障害予防とケガのトータルコンディショニングを習得する。
		トレーナー実習Ⅵ Internship Program for Athletic Trainer Ⅵ	必修	実習	1	30		30					障がい者スポーツについて学び、各分類の知識（競技スポーツ、市民スポーツ、日常生活の自立を目的としたスポーツ、リハビリテーション スポーツ）を修得する。
		柔道整復スポーツ研究Ⅰ Clinical Judo therapy Practice Ⅰ	必修	講義 演習	2	60			60				研究の意義を理解し、先行研究などの検索エンジンを使用した論文検索を学ぶ。また、自身のテーマに沿った正しい測定方法を習得し、プレ実験で収集したデータを発表する。
		柔道整復スポーツ研究Ⅱ Clinical Judo therapy Practice Ⅰ	必修	講義 演習	2	60				60			実験データに基づき、先行研究と照らし合わせてプロトコールの修正および正しい実験を行う。また、収集データを分析し、比較検討して発表用データを作成し、論文を作成する。
		柔道整復スポーツ学特論 Judo therapy sports science Advanced lecture	選択 必修	講義 演習	1	30				30			海外解剖学医学研修を通じて、人体の器官や組織に関する構造を理解する。またその構造から、生命の営みを維持するための人体構造の知識を修得する。
その他	その他	メンタルヘルス Mental Health	必修	講義	2	30	30						心理学の概要を理解し、患者の心因的要因とパフォーマンスの関連、緊張のコントロール技法、コーピング、動機付け、イメージトレーニング技法、カウセリングの知識を修得する。
		手技療法Ⅰ Technique therapyⅠ	必修	実習	1	30	30						柔道整復師の施術における手技療法の基礎を学ぶ。また、下肢・体幹・肩関節周囲・頸部に対する手技療法を修得し、実施できるようになる。
		手技療法Ⅱ Technique therapyⅡ	必修	実習	1	30			30				手技療法Ⅰで習得した技術を用い、背部、肩甲骨周辺、頭頸部、下肢に対しての手技療法を実践できるようになる。
		柔道整復臨床医学Ⅰ Judo therapy clinical medicine Ⅰ	必修	講義	2	30				30			柔道整復師が臨床現場で必要となる病理学の知識（免疫の仕組み、免疫不全、自己免疫、アレルギー分類、腫瘍、遺伝子と染色体の構造と仕組み、奇形、病期の原因等）を修得する。

区分		開講科目名 （英語表記）	必修 選択	授業 形態	単位 数	時間 数	１年		２年		３年		講義概要
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
その他	その他	柔道整復臨床医学Ⅱ Judo therapy clinical medicine Ⅱ	必修	講義	2	30				30			柔道整復師が臨床現場で必要となる一般臨床医学の知識（呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、血液、造血器疾患、腎尿路系疾患、神経疾患、感染症、膠原病疾患等）を修得する。
		柔道整復臨床医学Ⅲ Judo therapy clinical medicine Ⅲ	必修	講義	2	30				30			柔道整復師が臨床現場で必要となる衛生学・公衆衛生学の知識（国際保健、WHO活動、成人保健、国民医療費、公的医療保険、介護保険、危機管理、医療安全対策、安全管理、精神保健等）を修得する。
		柔道整復臨床医学Ⅳ Judo therapy clinical medicine Ⅳ	必修	講義	2	30						30	柔道整復師が臨床現場で必要となる整形外科学の知識（感染性疾患、軟部腫瘍、骨腫瘍、骨関節疾患、先天性骨系統疾患、骨端症、四肢循環障害、上肢・下肢絞扼神経障害、脊髄損傷、運動器疾患等）を修得する。
		柔道整復臨床医学Ⅴ Judo therapy clinical medicine Ⅴ	必修	講義	2	30						30	柔道整復師が臨床現場で必要となる外科学概論の知識（麻酔、移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法、脳神経疾患、頸部疾患、呼吸器疾患、脈管疾患、乳腺疾患、胸部外科、腹部外科等）を修得する。
		柔道整復臨床医学Ⅵ Judo therapy clinical medicine Ⅵ	必修	講義	2	30						30	柔道整復師が臨床現場で必要となるリハビリテーション医学の知識（補装具、脳卒中、脊髄損傷、切断、末梢神経損傷、関節リウマチ、整形外科疾患、心疾患、呼吸器疾患等）を修得する。
		柔道整復医学演習Ⅰ Judo therapy medicine exercises Ⅰ	必修	演習	2	30					30		国家試験合格基準に必要となる解剖学・生理学の重要項目（生理学基礎、植物性生理学、動物性生理学、ヒトの細胞の形と組織の種類・発生過程・内臓系・循環器系・消化器系・内分泌系等）の知識を修得する。
		柔道整復医学演習Ⅱ Judo therapy medicine exercises Ⅱ	必修	演習	2	30						30	国家試験合格基準に必要となるの柔道整復理論の重要疾患（上肢骨折、上肢脱臼、上肢軟部組織損傷）の整復法、固定法、後療法、合併症、鑑別診断、予後、徒手検査の知識を修得する。
		柔道整復医学演習Ⅲ Judo therapy medicine exercises Ⅲ	必修	演習	2	30						30	国家試験合格基準に必要となるの柔道整復理論の重要疾患（下肢骨折、下肢脱臼、下肢軟部組織損傷）の整復法、固定法、後療法、合併症、鑑別診断、予後、徒手検査の知識を修得する。
		柔道整復医学演習Ⅳ Judo therapy medicine exercises Ⅳ	必修	演習	2	30						30	国家試験合格基準に必要となる一般臨床医学、病理学の重要項目（臨床医学・診断学、診察各論、疾病の意義と分類方法、代謝障害）の知識を修得する。
		柔道整復医学演習Ⅴ Judo therapy medicine exercises Ⅴ	必修	演習	2	30						30	国家試験合格基準に必要となるの運動学、整形外科学、リハビリテーション医学の重点項目（関節運動の表示、てこの構造、関節運動、生体材料・再生医学・整形外科的診察法、姿勢と歩行）の知識を修得する。
		キャリアライフプランニングⅠ Career life planning Ⅰ	必修	講義	2	30	30						柔道整復業務で、自分の興味関心のあること、実現したい夢、現在の得意な科目、学校生活で大切にしていることなど考察し、卒業後の柔道整復師像を思い描く。
		キャリアライフプランニングⅡ Career life planning Ⅱ	必修	講義	2	30		30					柔道整復師は社会では何が求められているのか、柔道整復師としてどのような準備をする必要があるのかを知識として修得する。。
		キャリアライフプランニングⅢ Career life planning Ⅲ	必修	講義	2	30			30				定まった解のない問題をグループで解決に向けて取り組む能力や、柔道整復師の世界で必要とされる疾患の問題に対処できる基本的な処理能力を身につけて、臨床現場に出てから必要とされる人材を目指す。
		キャリアライフプランニングⅣ Career life planning Ⅳ	必修	講義	2	30				30			ビジネスマナーや適性検査・自己分析を進め、個々の特性や価値観を知知り、就職活動に活用できるようにし、具体的に就職活動に入る準備を整える。
		キャリアライフプランニングⅤ Career life planning Ⅴ	必修	講義	2	30					30		自分自身の将来の柔道整復師像と合致する就職先を事前に調査し、就職活動で使用する履歴書の作成や面接の準備を進める。
		キャリアライフプランニングⅥ Career life planning Ⅵ	必修	講義	2	30						30	就職先での柔道整復師としての自分自身の行動目標、社会に貢献できる柔道整復師像をイメージし、何が必要なのかを自分自答し、将来のキャリアプランを実現するために準備を進める。
総時間数					201	3690	660	645	675	675	585	450	